

14:00~14:15

挨拶 社団法人日本橋梁建設協会 会長 川田 忠樹

## 技術発表会

14:15~14:55

1.細幅箱桁の設計と施工  
—福岡高速道路5号線503工区・504工区—  
技術委員会設計小委員会

14:55~15:35

2.極厚板を使用した大規模アーチ橋の  
現場溶接技術報告  
—新桜宮橋の施工(全断面現場溶接)—  
技術委員会架設小委員会

15:35~16:15

3.海外工事報告  
—中国潤揚大橋上部工架設エンジニアリング業務—  
企画委員会国際小委員会

16:15~16:30

休憩

## 特別講演会

16:30~17:30

大学から見た橋梁業界の現状と今後への期待  
大阪市立大学大学院工学研究科都市系専攻 教授  
北田 俊行

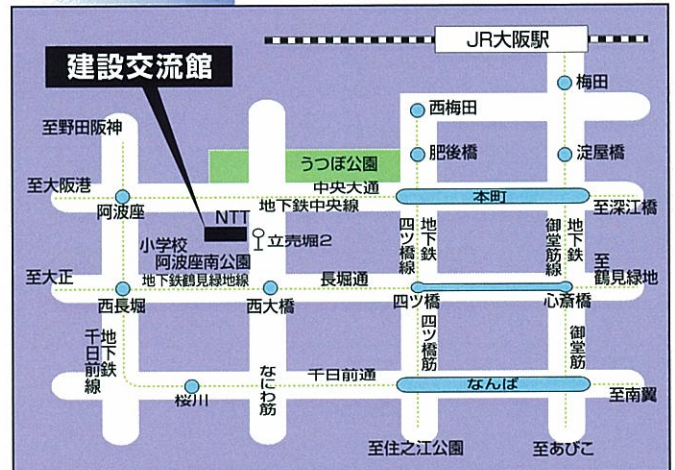
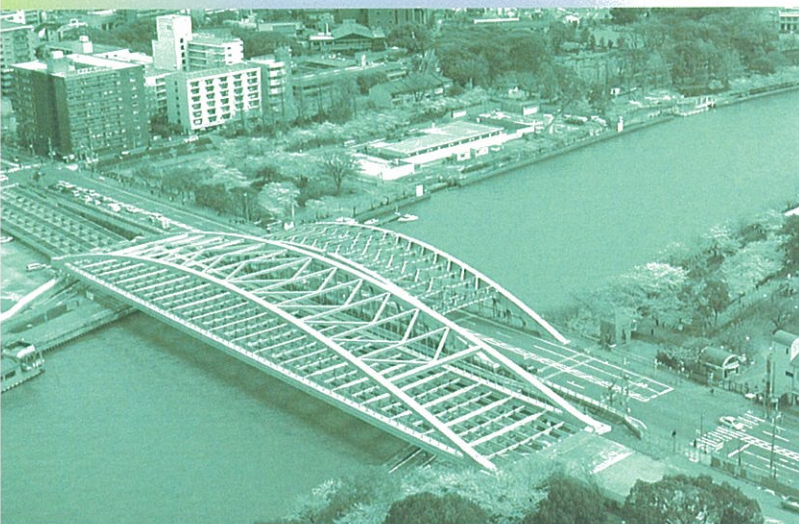


17:30~17:35

閉会の辞 技術委員会設計小委員会 副委員長

# 橋梁技術発表会 及び 講演演会

《鋼橋技術の最近の話題》  
メインテーマ



●地下鉄四ツ橋線本町駅23番出口より徒歩5分

日 時 / 平成19年11月13日(火) 14:00~17:30  
会 場 / 建設交流館 8Fグリーンホール 〒100-0012 大阪市西区立売堀2-1-2 Tel. 06-6543-2551  
申 込 方 法 / ① Eメール(URL) <http://www.jasbc.or.jp/>の「技術発表会申し込み受け」まで  
② Fax(指定の用紙に記載) Fax. 06-6535-5086  
申 込 期 限 / 平成19年11月2日(金)まで(受付は9月中旬から)  
主 催・連 絡 先 / 社)日本橋梁建設協会 近畿事務所 〒550-0005 大阪市西区西本町1-8-2(三晃ビル)  
Tel. 06-6533-3238 Fax. 06-6535-5086  
E-Mail: hashiken@gold.ocn.ne.jp  
※CPDS認定予定(継続学習制度)

参加費無料  
定員 250名  
申込先着順

## ・細幅箱桁の設計と施工

—福岡高速道路5号線503工区・504工区—

本橋は箱断面の腹板間隔を従来箱桁より狭くすることにより、縦リブおよび横リブを省略するなど箱内構造を簡素化しています。また、長期耐久性を有した剛性の大きな鋼・コンクリート合成床版を採用し、縦桁および横桁を省略することで大幅な合理化を図っています。そのため、床組や補剛材等がないことから維持管理に優れ、シンプルな構造となり景観性もより向上しています。

## ・極厚板を使用した大規模アーチ橋の現場溶接技術報告

—新桜宮橋の施工(全断面現場溶接)—

歴史的遺産としても有名な銀橋(桜宮橋)に併設された新桜宮橋は、銀橋との景観に配慮したスレンダーな鋼単純ローゼ橋です。そのため、部材には極厚板が使用されており、景観性に優れる溶接継手が採用されました。本橋のように極厚板を使用した大規模なアーチ橋の全断面溶接はわが国初の施工です。この現場溶接の経験を施工管理と品質管理の面より考察し、今後の現場溶接技術の向上に役立てる目的で報告します。

## ・海外工事報告

—中国潤揚大橋上部工架設エンジニアリング業務—

中国国内においては、1000mを超える吊橋を建設した経験を有する企業がありませんでした。施主である江蘇省建設指揮部は、元請会社である二公局が吊橋建設工事を施工していくにあたり、十分な経験を有する外国企業の参画が不可欠であると判断しました。そこで、新日鉄エンジニアリング(株)では架設計画、特殊設備リース、現地S.V.業務を実施することとなりました。ここでは技術検討、架設指導等エンジニアリング業務について報告します。

## 特別講演会 講演者の紹介

**北田俊行** (大阪市立大学大学院工学研究科都市系専攻教授)

【略歴】

- 1945.9 大阪府生まれ
  - 1968.3 大阪市立大学工学部土木工学科卒業
  - 1970.3 大阪市立大学大学院工学研究科土木工学専攻修士課程終了
  - 1973.4 大阪大学工学部土木工学科助手
  - 1978.4 大阪市立大学工学部土木工学科講師
  - 1980.9 工学博士(大阪大学)
  - 1981.10 大阪市立大学工学部土木工学科助教授
  - 1984.3~1985.3 英国ロンドン大学インペリアルカレッジ客員教員
  - 2002.4 大阪市立大学大学院工学研究科都市系専攻教授
- 
- 1979.5 土木学会論文奨励賞
  - 1992.5 土木学会田中賞(論文部門)
  - 2006.11 日本鋼構造協会論文賞

## 特別講演のテーマと要約

【テーマ】  
大学から見た橋梁業界の現状と今後への期待

【要約】  
橋梁建設ラッシュの時代から、世界的規模の橋梁群の建設という頂上に至る輝く時代から、その後、橋梁建設事業の激減、新橋建設から維持管理への仕事の変換、兵庫県南部地震による大被害、技術者倫理に係わる問題の多発など、暗い荒廃の時代へと下り始めている。もう一度、輝けなくてもよい。しかし、絶えず、持続的に、明るくて、若者の集まる楽しい業界になる方法はないか。私なりに時間をかけて考えてみたい。その結果が、一笑するようなものであってよい。それを叩き台に、少しでも業界として参考になる点があればと考え、あえてこのテーマを選んでお話ししたい。

現在の学外委員:大阪工業大学八幡工学実験場センター専門委員会委員、国土交通省近畿地方整備局・奈良国道事務所・奈良ブロック総合評価委員会委員長、(財)道路保全技術センター・道路防災ドクター、国土交通省近畿地方整備局・新技術活用評価委員会委員、(財)海洋架橋・橋梁調査会・橋梁ドクター、国土交通省近畿地方整備局・大阪湾岸道路西部橋梁技術検討会委員、災害科学研究所所員、阪神高速道路(株)技術審議会委員

きりとり線

Fax番号 06-6535-5086

平成19年度  
橋梁技術発表会  
(大阪地区)

参加申込書

所 属	団体名 _____	所属 _____
氏 名	役職 _____	氏名 _____
郵便番号	□□□□-□□□□	
住 所	_____	
電話番号	( ) _____	FAX番号 ( ) _____
メールアドレス	_____	
前回参加の有無	有 ・ 無	